

広島長崎の悲劇

八月六日、午前八時十五分、広島市中央部の上空五百七十米で原子爆弾が爆発し、熱と爆風と放射能が、一瞬にして広島市を破壊、二十万余人の人々の命を奪う。

最初に原爆投下の目標とされたのは、京都・小倉・新潟の四都市であったが、原爆投下の効果をよりはつきりさせる為、七月三日、米統合参謀本部はこれらの四都市の通常爆弾や焼夷弾による爆撃の禁止命令を出したという。

七月十六日、アメリカはニューメキシコで原爆実験に成功し、二十日後にこれを実際に使用したのである。

既に沖縄戦は終わり、本土も大都市はもとより地方都市まで次々と焦土と化し、日本は戦力を殆ど喪失、またソ連の参戦も迫っていた。

戦後、トルマンは、原爆を使った事により数千万のアメリカ兵や連合国兵士の生命が救われたと述べた。

しかし、アメリカにとっても原爆使用は、対日戦の勝利をもたらしてソ連に対しアメリカの力を誇示し、戦後世界の力関係を確たるものとする道でもあった。

八月九日には、第二発目の原爆が長崎に投下され約八万余の命を奪った。

ヒロシマの惨状とガダルカナル島に残された自爆飛行機。

